

# 令和元年(平成31年)度 武雄市立川登中学校 学校評価結果

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
自立の精神に満ちた 豊かな人間力の育成	(1) 確かな学びの充実                      (2) 豊かな人間性と社会性の育成 (3) 生徒自らの活動の推進                (4) 地域との共生と創造性の育成



## 3 目標・評価

### ① 確かな学びの充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	達成度	成果と課題(達成度の理由)	具体的な改善策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向かう教育活動の推進(令和元年度新規)	◇将来の目標や夢を持つ生徒80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生において、職場見学を実施する時に、重点的に行う。</li> <li>・2年生において、職場体験を実施する時に、重点的に行う。</li> <li>・3年生を中心に全学年において立志式を実施し、将来の目標や夢を確立させる。</li> <li>・1月に、全学年の生徒に今年の目標を決定させ、夢を実現させるためには、どのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の見通しを持たせる。</li> </ul>	進路指導	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生においては職場見学、2年生においては職場体験、3年生を中心に全学年において立志式を実施し、将来の夢や目標を持つことができるようにした。</li> <li>・1月に、全学年の生徒に今年の目標を決定させ、具体的に何をどのように頑張るかを確認させ、1年間の見通しを持たせることができた。</li> </ul> アンケートスコア【81】	
	家庭と連携した学習環境づくり	◇平日の家庭学習時間が2時間以上になる生徒の割合を65%(H30-53%)に向上させる。  ◇「家で、学校の宿題をしている」と答える生徒の割合95%(H30-89%)以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する機会を年2回設定する。</li> <li>・生活習慣アンケートを行い、改善点を見出し、その対策について全職員で取り組む。</li> </ul>	授業づくり部会・学級づくり部会	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト前に、学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する時間を設定し、家庭学習に取り組む姿勢が向上するように努めた。</li> <li>・アンケートの「平日の家庭学習時間が2時間以上していますか。」の項目で、肯定的な回答をした生徒は54.4%、保護者は36.6%、職員は38.5%であった。生徒については、平成30年度より1.4ポイント上回ったが、目標の65%を達成することができなかった。</li> </ul> アンケートスコア【62】	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの「学校の宿題をきちんとしていますか。」の項目で、肯定的な回答をした生徒は94.4%、保護者は90.1%、職員は92.8%であった。平成30年度より5.4ポイント上回った。</li> </ul> アンケートスコア【88】

② 豊かな人間性と社会性の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	達成度	成果と課題(達成度の理由)	具体的な改善策	
教育活動	●心の教育	人権・同和教育の推進	◇講師招聘による職員研修を年2回以上実施する。 ◇人権をテーマにした学活か道徳の授業を全クラス1回以上行う。	・QUで学級集団や生徒の状態を把握し、適切な支援を行うことにより学校生活満足群の割合を向上させる。 ・全生徒が人権作文・標語に取り組むよう指導する。	人権・同和教育	A	・QUを年2回実施し、その結果分析のために、講師招へいによる研修会を実施した。学級集団や生徒の状態を把握し、適切な支援を行うための具体的な改善策を講じることができた。 ・事前の道徳の時間を利用して人権意識を高め、全生徒が人権作文・標語に取り組むことができた。これらの作品を集会などで発表する場を設定し、全校で深く考える良い機会とすることができた。 アンケートスコア【84】	・特別に配慮が必要な生徒については、今後も全職員で情報交換を密に行い、共通理解・共通実践を行っていく必要がある。また、関係機関との連携を密にし、生徒がよりよい方向へ進んでいくことができるような支援を行う。  ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応等について、引き続き取り組んでいく必要がある。また、生徒との信頼関係を今後さらに深めていく必要がある。	
		特別支援教育の推進	◇共通理解のもとでの支援ができるように生徒理解のための職員研修を年3回実施する。	・アンケートや教育相談による情報の収集および該当の保護者へ対応について情報提供を行う。 ・特別支援教育に関する研修会を適宜開催し学校全体での支援体制を充実させる。	特別支援教育コーディネーター	B	・特別に配慮が必要な生徒について、職員間で情報交換を密に行い、共通理解を図った。特に、外部講師を招聘し具体的な対応策について協議をしたり、保護者との進路相談の際に、福祉の方の方に同席していただき、助言をしてもらったりすることができた。 ・空き時間の職員を特別に配慮が必要な生徒に付き添わせできるだけ生徒の困り感が取り除けるように配慮した。 アンケートスコア【80】		
	●いじめの問題への対応	道徳教育の充実	◇全学級「道徳」の授業を保護者等に公開する。 ◇特別の教科「道徳」実施に向けた研修会を年2回以上実施する。	・道徳の授業年間35時間にしっかりと教師が取り組む。 ・講師招聘による道徳の教科化に伴う職員研修会を行う。 ・特別の教科「道徳」の完全実施に向けた準備を整える。(評価方法や通知表様式改訂など)	道徳教育	A	・道徳の教科化に伴い、外部講師招へいによる研修会を8月と2月の2回実施し、「考え・議論する道徳の考え方や評価方法や通知表、要録の書き方について研修を深めることができた。 ・1・2年でのふれあい道徳の授業公開では、授業について各学年十分に検討して実施することができた。3年生では、立志式において、これまでの生活を振り返り、親への感謝の気持ちを表すことができた。また、将来の夢についてしっかりと意思表示をすることができた。 アンケートスコア【83】		
		規範意識の向上を目指した指導の充実		◇「学校に行くのは楽しいと思う」という問いに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合85%(H30-79%)以上を目指す。	・「学校生活アンケート」を定期的に行い、その結果内容を全職員で共有して対処しいじめ撲滅を目指す。	生徒指導	A		・アンケートの「学校へ行くのは楽しいですか」項目で、肯定的な回答した生徒は90.0%、保護者93.0%、職員は100%であった。生徒の結果については、平成30年度より5.0%上回った。 ・定期的に生活アンケートを行い、全職員で共通理解の基に指導を行うことができた。 アンケートスコア【83】
				◇「学校に行くのは楽しいと思う」という問いに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える生徒の割合85%(H30-79%)以上を目指す。	・学習規律や生活ルールを守ることを徹底させ、生徒の落ち着きのある学校生活を目指す。		A		・アンケートの「授業中や学校生活全体でのルールをきちんと守っていますか。」の項目について、肯定的な回答をした生徒は96.7%、保護者は93.0%、職員は92.8%であった。生徒については、平成30年度より17.7ポイント上回った。 アンケートスコア【85】

③ 生徒自らの活動の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	達成度	成果と課題(達成度の理由)	具体的な改善策
教育活動	○生徒の自己肯定感を高める指導の工夫	学校行事等への生徒の参画意識の向上	◇「体育大会などの学校行事に積極的に参加した」と答える生徒の割合100%(H30-96%)を目指す。	・生徒中心の実行委員会を設置し、生徒の自主的な運営が促進されるよう支援を行う。 ・生徒会による企画運営の機会を多く与える。 ・生徒たちによる自主的な運営ができるように、事前の役割分担の確認や準備等を行う。	生徒会	A	・どの学校行事においても生徒たちは精一杯取り組むことができた。アンケートの「いろいろな学校行事に積極的に参加したか」の項目について、肯定的な回答した生徒は97.8%、保護者は92.9%、職員は92.9%であった。生徒については、平成30年度より1.8%上回った。生徒会活動についても自主的に運営に取り組み、事前の役割分担や準備を確実に行うことができた。 アンケートスコア【90】	・生徒の自治的・自主的な活動を今後もさらに推進させていくことで、生徒の学校満足感や達成感を味わわせていく必要がある。  ・食育についても今後も情報発信を行い、食育の大切さについて啓発していく必要がある。
		部活動の推進	◇「部活動が充実している」と答える生徒の割合85%(H30-79%)以上を目指す。	・顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動を充実させる。 ・臨場による指導を増やし練習態度の向上を目指す。	体育主任	A	・アンケートの「部活動は充実していると思いますか」の項目について、肯定的な回答した生徒は95.5%、保護者は84.2%、職員は100%であった。生徒については、平成30年度より16.5%上回った。 ・生徒は自主的に練習に取り組むことができるようになってきた。 アンケートスコア【88】	
	朝食摂取率の向上	◇「朝食を毎日食べている」生徒95%(H30-89%)以上を目指す。	・朝食の大切さについての学習や掲示板などによる啓発を積極的に行う。 ・食育だよりなどで家庭への協力も呼び掛ける。	食育・給食指導	A	・アンケートの「朝食をきちんと毎日食べていると思いますか」の項目について、肯定的な回答した生徒は95.6%、保護者は95.7%、職員は100%であった。生徒については平成30年度より、6.6%上回った。 ・食育だよりや献立などで、食育の大切さを定期的に呼び掛け、協力を促すことができた。 アンケートスコア【92】		

④ 地域との共生と創造性の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	達成度	成果と課題(達成度の理由)	具体的な改善策
学校運営	○地域と学校の協働による学校づくり	地域と学校の相互の関わりを深める教育活動の推進(コミュニティ・スクール)	◇地域人材を活用した授業や行事を年5回以上実施する。 ◇情報公開を推進し、学校HPの更新回数を100回以上行う。	・学校運営協議会を開催し、地域人材を生かした教育実践ができるように、連絡調整を密に行う。	コミュニティー・スクール	A	・学校運営協議会3年目にあたり、学校・地域の連携について意見交換をすることができた。5月の体育大会では4時間、12月の篠笛体験活動については5時間、外部講師として地域の方にご協力していただき、地域人材を活かした教育実践ができるように連絡調整を行うことができた。特に、地域の協力無しでは実現できない学校行事もあり、その橋渡しを担って頂くことは大変ありがたかった。 アンケートスコア【85】	<p>・本校の永年の伝統である郷土芸能の体験を今後も継続していくために、地域の方の協力を仰ぎながら進める必要がある。</p> <p>・働き方改革の実現に向け、業務の見直し、業務遂行に関する意識改革などを積極的に推進していく必要がある。</p>
				・学校HPや配信メールにより常に新しい情報を豊富に提供する。 ・学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。		A	・学校、学年、学級、食育、給食、保健、部活動など各種たよりを発行し、学校からの情報発信に積極的に取り組むことができた。 ・週行事や月行事等を随時発信するために学校HPを、数多く更新した。 アンケートスコア【81】	
		伝統や文化の理解・継承・発展を図る教育活動	◇各地区の伝統芸能を体験させる機会を設ける。	・地域の方を講師として招聘し郷土芸能を指導してもらう。		A	・5月の体育大会や12月の篠笛体験活動など地域の方のご協力のおかげで校区に伝わる伝統芸能を体験させることができた。事後のアンケートの「楽しく活動することができた」の項目では、肯定的な回答した生徒は91.5%、「興味をもって活動することができた」という項目では、肯定的な回答した生徒は88.1%であった。 アンケートスコア【80】	
		関係機関との連携強化	◇地区公民館やまちづくり協議会と連携した取り組みを3つ以上行う。	・町民運動会は学校行事として参加させる。 ・地域奉仕活動に生徒会を中心に組みこませる。 ・地域行事に生徒を参加させるために学校行事や部活動の時間を配慮する。		A	・町民運動会については、災害により中止となった。それ以外の相撲大会、町の文化祭など数多くの町の行事において、生徒が活躍できる場を設定していただいた。アンケートの「地域で行われる行事に積極的に参加しますか」の項目について、肯定的な回答した生徒は93.3%、保護者は90.2%、職員は100%であった。 アンケートスコア【89】	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の連携促進	◇明るい職員室づくりを目指し、使命感と情熱にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	・朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、チームで協力して業務を遂行できるようにする。 ・時間外の時間を削減するために、会議や事務の効率化を図る。 ・早期発見・早期対応できるように、生徒の変化や様子について、共通理解できる場を設ける。	総務	A	・アンケートの「本校は、明るい職場環境であり、教師力の向上に努める職員集団になっていると思いますか。」の項目について、肯定的な回答した職員は100%であった。 ・アンケートの記述より、「職員室内で生徒のことに、情報を共有し、生徒一人一人に応じた指導が行われていると思う」「様々な意見や相談ができる環境だと思う」などの回答があった。 アンケートスコア【82】	
		校務処理の効率化	◇校務に関する電子媒体の更新・改編作業を推進し、実情に即した内容にすることで、校務の更なる効率化を行う。	・通知表、指導要録等の作成ファイルの内容を改編・更新する。 ・全職員が校内グループウェア、SEI-NETなどを有効活用するよう啓発する。		B	・通知表や、指導要録等の作成ファイルの内容を改編・更新することができた。また、全職員が校務シェアやSEI-NETなどを有効活用し、業務を遂行することができた。 ・アンケートより「小規模ため、一人の負担は大きい。行事についてももう少し検討できる部分があると思う」など業務の効率化をさらに推進していく必要があると思う。 アンケートスコア【75】	

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目

アンケートスコア:生徒・保護者・職員によるアンケートの回答の平均を100点満点に換算したもの。